

土器川流域治水プロジェクト

令和4年3月31日公表

四国地方整備局 香川河川国道事務所

土器川流域治水プロジェクト【位置図】

～『讃岐うどん』と『田園文化都市』を守る治水対策～

○令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、土器川水系においても、全国でも急流河川で下流部の氾濫が拡散する水害特性に対して、事前防災対策を進める必要があることから、堤防整備及び侵食対策や、中下流域の下水道整備等の取り組みを実施することで、国管理区間においては、戦後最大の平成16年10月台風23号と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。

●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備（橋梁架替含む）、河道掘削、侵食対策、土器川潮止堰更新
- ・雨水貯留施設整備【下水】
- ・下水道事業の推進【下水】
- ・雨水排水施設整備【下水】
- ・各家庭等における雨水貯留浸透施設整備への助成【都市】
- ・小河川の河川整備（河道掘削等）
- ・治山施設の整備
- ・森林の整備・保全【林野】
- ・砂防施設の整備等
- ・農地・ため池の保全・活用

●被害対象を減少させるための対策

- ・既存の霞堤の保全
- ・不動産関係業界と連携した水害リスクに関する情報の解説

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・「中讃地域 防災・減災・縮災ネットワーク」構築・推進
- ・「多機関連携型タイムライン」の作成と訓練の実施
- ・広域避難の近隣市町連携
- ・水害リスク空白域の解消
- ・ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保
- ・堤防決壊時の緊急対策シミュレーションの実施
- ・国・県・市町など関係機関が連携した総合水防訓練の実施
- ・国・県・市町など土器川水防連絡協議会の開催
- ・洪水予測等のプッシュ型情報提供
- ・水害リスクラインを活用した情報提供 等



堤防整備



雨水貯留施設整備

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。



土器川流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～『讃岐うどん』と『田園文化都市』を守る治水対策～

- 土器川は、急流河川で下流部の氾濫が拡散し、四国経済の一翼を支える産業集積地域や田園文化都市に被害が発生する流域の特徴を踏まえ、上流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 下流市街地等での重大災害の発生を未然に防ぐため、引堤、堤防整備や河道掘削等の実施に加え、砂防施設等の整備等、「中讃地区防災・減災・縮災ネットワーク」構築・推進、多機関連携タイムラインの策定・運用、広域避難連携の構築等を実施。
 - 【中期】 流下能力不足解消のため、河川横断工作物改築及び堤防整備を実施するとともに、既存の霞堤の保全や下水関連施設整備を実施。上流狭窄部の河道掘削等に加え、下水関連施設整備や被害軽減の取組を継続し、流域全体の安全度向上を図る。

【ロードマップ】 ※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	下流部の引堤、河道掘削、堤防整備、無堤部の堤防整備、河川横断工作物の改築、上流狭窄部の河道掘削	国土交通省 香川県	下流部の引堤、河道掘削、堤防整備完了	堤防整備、河川横断工作物改築完了	上流狭窄部の河道掘削完了
	雨水貯留施設整備【下水】、下水道事業の推進【下水】、雨水排水施設整備【下水】、小河川改修 等	丸亀市、善通寺市、宇多津町、多度津町、まんのう町	雨水貯留施設整備、下水道事業の推進、雨水排水施設整備、小河川改修完了		
	砂防施設の整備等	香川県	砂防施設整備の継続		
	治山施設の整備 森林の整備・保全【林野】	香川県、 林野庁、森林整備センター	治山施設の整備、森林の整備・保全の継続		
	農地・ため池の保全・活用	香川県、丸亀市、坂出市、善通寺市、宇多津町、多度津町、琴平町、まんのう町	農地の保全 ため池管理の周知・啓発		
被害対象を減少させるための対策	既存の霞堤の保全	国土交通省	既存の霞堤の保全		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	「中讃地区 防災・減災・縮災ネットワーク」構築・推進	国土交通省、香川県、丸亀市、まんのう町	ネットワーク構築・推進	ネットワーク連携の拡大、運用の継続	
	「多機関連携型タイムライン」の活用	国土交通省、香川県、丸亀市、坂出市、宇多津町、琴平町、多度津町、まんのう町	連携したタイムライン策定・運用	タイムライン運用の継続、必要に応じて見直し更新	
	広域避難の近隣市町連携	国土交通省、香川県、宇多津町、多度津町、まんのう町	広域連携構築・強化	広域連携運用の継続、必要に応じて見直し更新	
グリーンインフラの取組み	治水対策における多自然川づくり ・自然環境が有する多様な機能活用の取組み ・生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成 ・魅力ある水辺空間・賑わい創出	国土交通省	整備における生物の多様な生育環境、レキ河原の原風景の保全、干潟保全、ヨシ原再生、汽水域水際環境の保全、貴重種等の移植 水辺の楽校等を活用した小中学校などの河川環境学習、「熱い土器川プロジェクト」の取組みによる住民参加型の河川管理の推進、土器川ホテル実行委員会 土器川生物公園の保全、霞堤開口部の陸域～水域へのアクセス連続性の保全 水辺の賑わい空間創出、瀬切れ河川における伏流水取水の出水（すい）の水辺環境の保全（水辺の楽校に活用）		

■事業規模
河川対策（約89億円）
下水道対策（約105億円）

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

土器川流域治水プロジェクト【位置図】

～『讃岐うどん』と『田園文化都市』を守る治水対策～

●グリーンインフラの取り組み 『既設空間を活かした多種多様な生物の生息環境の再生と地域振興』

- 全国でも有数の急流河川で扇状地を流れる土器川は、レキ河原が広がる河川景観とともに、開放的な田園風景とランドマークとしての飯野山（讃岐富士）が一体となった原風景を形成し、自然と触れ合い、自然学習ができる地域の貴重な憩いの空間として利用されている。
- 下流域の汽水域環境、中流域の瀬切れが頻発するレキ河原環境、岩河床が露出する山地渓谷環境など、土器川水系内で多種多様な自然環境が存在し、各河川環境に適応した豊かで多様な動植物が息づく良好な河川環境が形成されており、今後概ね20年間で次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境を再生・保全するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

●治水対策における多自然川づくり

- ・整備における生物の多様な生育環境、レキ河原の原風景の保全、干潟保全、ヨシ原再生、汽水域水際環境の保全、貴重種等の移植

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

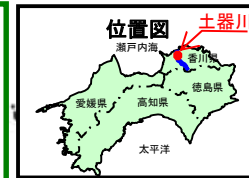
- ・水辺の楽校等を活用した小中学校などの河川環境学習
- ・「熱い・土器川プロジェクト」の取り組みによる住民参加型の河川管理の推進（ボランティア伐採等）
- ・土器川ホテル実行委員会（土器川への親しみ、愛護、一人ひとりの心に育み、ホテルの乱舞する美しい土器川を目指す）

●生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成

- ・土器川生物公園の保全
- ・霞堤開口部の陸域～水域へのアクセス連続性の保全

●魅力ある水辺空間・賑わい創出

- ・水辺の賑わい空間創出
- ・瀬切れ河川における伏流水取水の出水（ですい）の水辺環境の保全（水辺の楽校に活用）

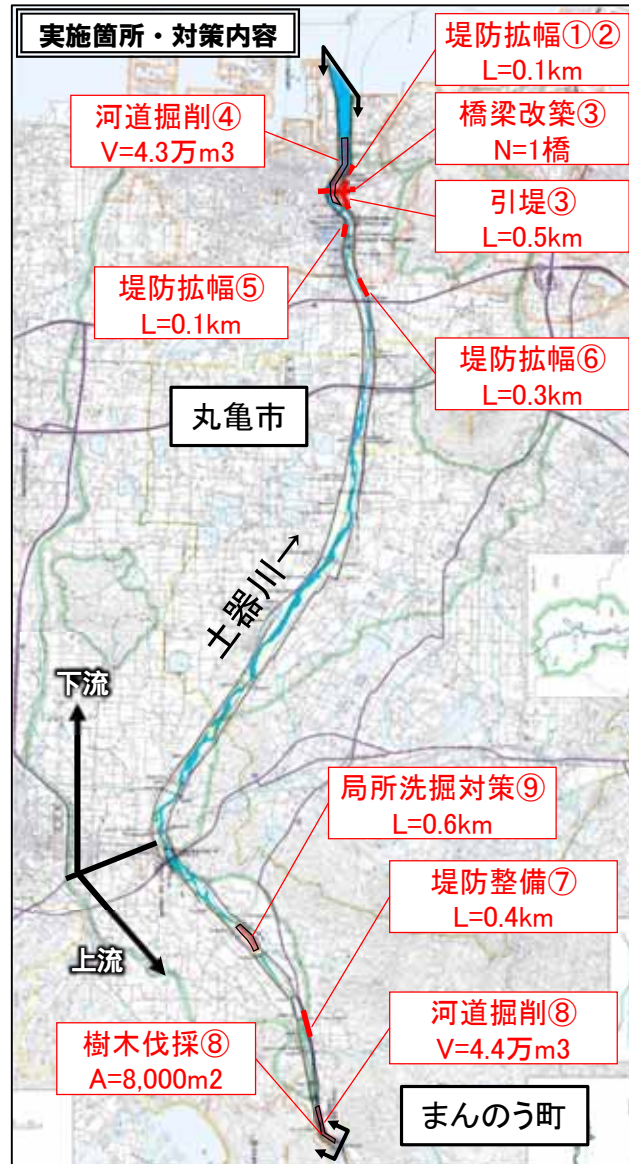


※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

土器川流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

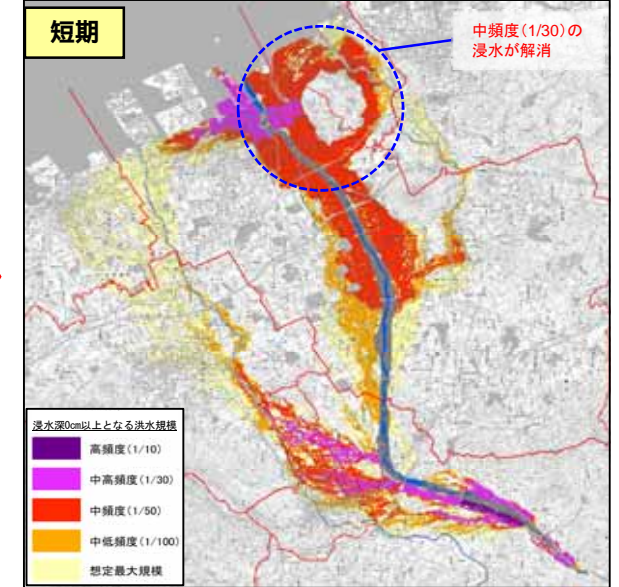
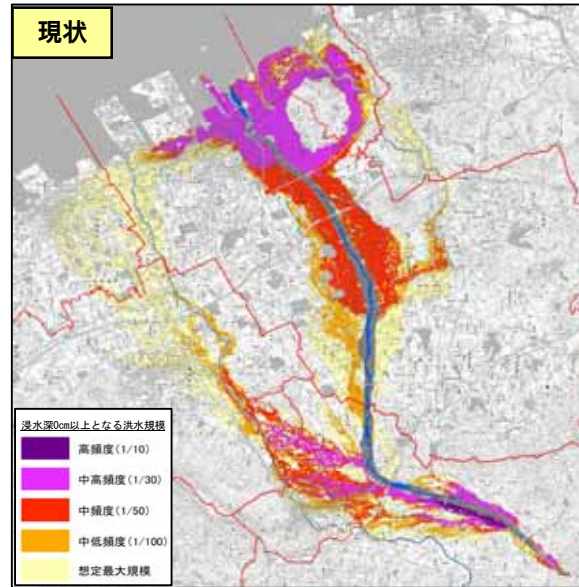
～『讃岐うどん』と『田園文化都市』を守る治水対策～

- 土器川においては、戦後最大の平成16年10月洪水と同規模の洪水を流下させるための河川整備を実施。
- 飯野地区の堤防整備事業及び河道掘削事業がR7までの完了に伴い、同地区の浸水被害を軽減することが可能。



短期整備（5か年加速化対策）効果：河川整備率※ 約87%→約95%

※河川整備率とは、河川整備計画において定めた河道整備流量を流すことができる国管理区間の割合。



注意①：本リスクマップは、土器川の国管理区間を対象として、各降雨規模で浸水深0cm以上となる範囲を示したものである。
 注意②：リスクマップの着色部分は外水氾濫（洪水位の上昇に伴う破堤氾濫、無堤部の溢水氾濫、越水による氾濫、慢食による破堤氾濫）を想定したものであり、漏水による破堤氾濫、内水氾濫及び津波浸水被害を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。
 注意③：短期のリスクマップは、「氾濫をできるだけ防ぎ減らすための対策」の内、国の河川事業の効果を示したものである。
 注意④：令和4年3月現在の検討中のものであり、今後変更の可能性がある。

区分	対策内容	区間	工程		
			【5か年加速化対策】 短期(R3~R7) 上流 1/6→1/6 下流 1/10→1/25	中期(R8~R11) 上流 1/6→1/20 下流 1/25→1/30	中長期 (R12~R22)
関連事業			R3		
氾濫をできるだけ防ぎ減らすための対策 (国事業)	河道掘削 26%→100%	④下流地区	80%	100%	
		⑧炭所箇所	10%	100%	
	堤防整備 17%→100%	①土器箇所	100%		
		②飯野箇所	100%		
		⑤土器箇所	100%		
		⑥飯野箇所	100%		
		⑦長尾箇所	10%	100%	
引堤 10%→100%	③飯野箇所	80%	100%		
局所洗掘対策 0%→100%	⑨長尾箇所	100%			
橋梁架替 0%→100%	③蓬萊橋	15%	100%		

【短期整備完了時の進捗】

①②土器・飯野箇所	堤防拡幅	100%
③飯野箇所	引堤	80%
③蓬萊橋	橋梁架替	15%
④下流地区	河道掘削	80%
⑤⑥土器・飯野箇所	堤防拡幅	100%
⑦長尾箇所	堤防整備	10%
⑧炭所箇所	河道掘削	10%
⑨長尾箇所	局所洗掘	100%
	(樹木伐採)	

5か年加速化メニュー：赤字
 整備計画残メニュー：緑字

注意①：スケジュールは現在実施している「5か年加速化対策」の予算が今後も同様に継続された場合を想定している。
 注意②：今後の予算・事業進捗状況によって当表の内容は変更となる場合がある。
 注意③：気候変動を踏まえた更なる対策を推進していくことも検討中である。

土器川流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～『讃岐うどん』と『田園文化都市』を守る治水対策～

戦後最大洪水等に対応した
国直轄区間の
河川の整備（見込）



整備率95%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



0市町

（令和3年度末時点）

流出抑制対策の実施



2施設

（令和2年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・苗木災害対策



治山対策等の
実施箇所 1箇所
（令和3年度実施分）
砂防関連施設の
整備箇所 0施設
（令和3年度実施分）

立地適正化計画における
防災指針の作成



0市町

（令和3年12月末時点）

避難のための
ハード情報の整備



1河川

洪水浸水想定
区域
（令和3年12月末時点）
内水浸水想定
区域 0団体
（令和3年11月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



洪水 223施設
避難確保
計画 土砂 38施設
（令和3年9月末時点）
個別避難計画 5市町
（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



- 土器川下流右岸（飯野箇所）の堤防断面不足箇所の堤防整備とともに、水衝部の河岸防護のため、低水護岸整備を実施。
- 右岸堤防の引堤を実施中。



雨水貯留施設整備

- 近年のゲリラ豪雨等に伴う町役場周辺の浸水を防止するための治水対策として、雨水貯留槽設置を実施。

被害対象を減少させるための対策



- 霞堤の歴史は古く、武田信玄が考案したと言われており、急流河川である土器川にも昔は多数の霞堤が存在していた。
- 現存する土器川の霞堤は、上流域に残されており、気候変動に伴う洪水の増大に対して、土器川の霞堤が有する治水効果について検討中。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策



- 土器川沿川の中讃地域を対象に、災害に強いまちづくりを進めるための取組として、「中讃地域防災・減災・縮災ネットワーク・プロジェクト」を設立。
- 取り組み推進のスタートにあたって、「キックオフシンポジウム」を令和3年12月19日に開催。
- シンポジウムでは、防災に関する情報提供、パネルディスカッションを行い、動画配信。